



第 104 号(平成 30 年2月 21 日)

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ
特別隊員

島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は次の方々に長野県の山岳地域で発生した遭難事例を原則的に 1 週間ごとにお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。

- ◇お客様と接する登山用品店舗スタッフの方
- ◇インターネットの登山情報サイトを利用される登山者
- ◇長野県内の各地区山岳遭難防止対策協会

平成 30 年中の山岳遭難発生状況(平成 30 年1月1日~2月 12 日)

BC(バックカントリー)は、登山行為を伴う「スキー(スノーボード)登山」と登山行為を伴わない「ゲレンデ外滑走」の総称。

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	内)外国人
平成 30 年	16	1	1	8	10	20	6
平成 29 年	21	5	1	9	15	30	12
前年同期比	-5	-4	0	-1	-5	-10	-6
内)BC	-5	1	1	-1	-11	-10	-6

山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北アルプス	槍穂高		0.0%				0
	後立山	5	31.3%	1	1	2	3
	その他	1	6.3%				2
	計	6	37.5%	1	1	2	5
中央アルプス			0.0%				0
南アルプス			0.0%				0
八ヶ岳連峰	5		31.3%			2	4
その他の山岳	5		31.3%			4	1
計	16			1	1	8	10

態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	3	18.8%			3		3
転倒	3	18.8%			3		3
病気	1	6.3%				1	1
道迷い	4	25.0%				7	7
落石		0.0%					0
雪崩	1	6.3%	1				1
落雷		0.0%					0
疲労凍死傷	1	6.3%				2	2
不明・他	3	18.8%		1	2		3
計	16		1	1	8	10	20

男女別・年齢別比率

区分	男性					(人)比率	女性					(人)比率	男女計		
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率	
19歳以下					0	3人 25.0%				3	3	4人 50.0%	3	7人 35.0%	
20代					0						0				0
30代			3		3					1	1				4
40代	1	1	1	1	4	5人 41.7%			1		1	3人 37.5%	5	8人 40.0%	
50代				1	1				1	1	2				3
60代			2	2	4	4人 33.3%					1	1	5	5人 25.0%	
70以上					0						0		0		
計	1	1	6	4	12		0	0	2	6	8		20		
比率	60.0%						40.0%								

日付	場所	年齢	性別	態様	死傷別	概要
2月5日	八ヶ岳連峰 天狗岳	44	男	道迷い	無事救出	西天狗岳から下山中、視界不良により道に迷い、行動不能
5日、八ヶ岳連峰天狗岳付近で、男性 A さん 44 歳が道に迷い行動不能となる山岳遭難が発生しましたが、諏訪地区遭対協隊員により発見・救助され、付近の山小屋に収容しました。						
2月6日	白馬村内ス キー場 付近の山林	41	男	その他	負傷	スキー場コース外を滑走中、立木に衝突し、負傷
6日、北安曇郡白馬村のスキー場で、スウェーデン人男性 A さん 41 歳が、コース外をスキー滑走中に立木に衝突して、左下腿骨折の重傷を負う遭難事故が発生し、山岳遭難救助隊員等が救助しました。						
2月8日	北アルプス 八方尾根	45	男	不明	行方不明	八方尾根周辺にバックカントリースノーボードへ出かけ、以後、行方不明
8日、北安曇郡白馬村北城の北アルプス八方尾根で、男性 A さん 45 歳がスノーボードに出掛けたまま行方不明となり、警察等で捜索しています。						
2月12日	八ヶ岳連峰 硫黄岳	54	女	その他	負傷	転倒した同行者のアイゼンが刺さり、負傷
12日、八ヶ岳連峰硫黄岳で、女性 A さん 54 歳が登山中に軽傷を負い、強風と降雪のために行動不能となる山岳遭難が発生し、茅野署員等により救助されました。						
2月12日	黒姫山	46	女	転倒	負傷	黒姫山をスキー滑走中、バランスを崩し転倒、負傷

山岳安全対策課からのワンポイントアドバイス

2月2週は5件の遭難が発生し、そのうちバックカントリースキー・スノーボード滑走中の遭難が3件発生しました。バックカントリースキー・スノーボードは近年、用具の急速な進歩により、愛好者が増えていますが、それに伴い遭難も増加しています。山岳エリアでの豪快な滑走やパウダースノーを求めれば当然それに伴うリスクは高まります。バックカントリースキー・スノーボードでは天候や雪質等によっては「滑れそうでも滑ってはいけない」状況があります。そのような際に賢明な判断が下せるよう、日頃から客観的な情報と知識の習得に努めましょう。

内容は長野県警察本部の発表時点のものです。

* 本通信に関する質問・意見は「長野県観光部山岳高原観光課」mt-tourism@pref.nagano.lg.jp までお寄せください。